

中学校における進路指導の実践

—平成15年度進路指導講座資料の分析—

戸塚唯氏・深田博己・児玉真樹子

Activities of career guidance in junior high schools

—An analysis of reports collected at the career guidance seminar in 2003—

Tadashi Tozuka, Hiromi Fukada, and Makiko Kodama

本研究の目的は、広島大学において行われた平成15年度進路指導講座の資料（中学校の進路指導教諭などが作成したもの）から、中学校の進路指導活動の傾向を明らかにし、生徒の職業観・勤労観を促進するための効果的な活動を見いだすことであった。まず中学校における進路指導の全体的な傾向を明らかにするために、各学年の様々な進路指導活動の割合を算出した。その結果、1年次には職業調べが、2年次には職場体験が、3年次には上級学校体験入学といった活動が多く行われることが示された。次に、資料に挙げられていた活動のうち、特徴的で効果的だと思われる活動事例について報告した。これらの活動事例を参考にすることによって、中学校におけるより効果的な進路指導が実現すると期待される。

キーワード：進路指導，職業調べ，職場体験，上級学校体験入学，中学校

1. はじめに

近年、若者の転職率・離職率の高さが問題となっている。例えば、総務省統計局（2003）によると平成14年度の転職率¹⁾は、15～19歳の場合には17.6%（男性）、21.2%（女性）、また20～24歳の場合には12.7%（男性）、15.4%（女性）であり、離職率²⁾は、15～19歳の場合には18.3%（男性）、20.9%（女性）、20～24歳の場合には9.1%（男性）、12.0%（女性）であった。これらの数字は、他の年齢層に比べて著しく高い（全年齢を通した転職率・離職率は、男性の場合は順に4.4%、4.7%であり、女性の場合は順に6.3%、8.6%である）。このような若者の高い転職率・離職率の原因としては、まず長引く不況による所得の減少や労働内容の過酷化が挙げられよう。総務省統計局（2003）によれば、転職希望の理由の第1位は「収入が少ない」であり、また第2位は「時間的・肉体的に負担が大きい」であった。社会情勢は転職率・離職率に確実に影響している。しかしなが

1) 1年前の勤め先と現在の勤め先が異なる者（転職者）の1年前の有業者に占める割合

2) 1年前には仕事をしていなかったが、その仕事を辞めて、現在は仕事をしていない者（離職者）の1年前の有業者に占める割合

ら、転職・離職に影響を与えているのは社会情勢だけではない。若者の軽率で安易な職業選択、職業観・勤労観の未確立、職業的アイデンティティ（職業に関する自分らしさの意識）の未確立も転職率・離職率に大きな影響を与えていると思われる。例えば榎本（1998）は、大学卒者の離職の原因として選職時の甘さを挙げ、若者が自分の生涯における自己実現を十分に志向していないことを指摘している。

軽率な職業選択をし、後日、転職・離職を余儀なくされることは、当の若者の能力開発、自己実現を阻害しかねない。また無業者・フリーターなどの失業者の増加は社会の労働生産性を抑制してしまう可能性もある。このような事態をできるだけ避けるためには、在学中から児童・生徒に職業観・勤労観を十分に形成させ、自己実現のために必要なことを熟慮させ、適切な職業選択ができる能力を形成することが重要である。国立教育政策研究所生徒指導研究センター（2002）も、「学校教育において子どもたちが望ましい職業観・勤労観を身につけることができるようにする取り組みの充実・改善が強く求められている」ことを指摘している。このような児童・生徒の職業観・勤労観を育成するための教育は、現在のところ進路指導の枠組みで行われており、様々な活動が試みられている。ただ、進路指導は地域性や生徒の質、時代によって様々なバリエーションが求められるものであるため、多くの学校では自校に適した進路指導の在り方を確立するのに苦慮しているように思われる。

このような状況の中で、平成15年6月、進路指導に必要な専門知識と技術を習得させ、進路指導の中核となる者の資質向上を図るため、平成15年度進路指導講座が開催された（於広島大学）。受講者は西日本の各府県の教育委員会・市町村教育委員会等の進路指導担当指導主事及び中学校・高等学校の進路指導担当教諭等である。この進路指導講座を受講するにあたっては、受講者は「我が校の進路指導（本県の進路指導）」というタイトルの各学校（各県）の進路指導に関するレポートを科せられていた。これらのレポートは進路指導講座受講のために作成されたものであるが、実際に行われた特色ある進路指導の試みや、それを行ったときの現場の生の感想が盛り込まれており、進路指導の資料として非常に貴重である。そこで以下ではこれらのレポートの内容を整理した上で、特徴的な進路指導の試みを紹介する。本報告によって、学校現場での進路指導の概略とより適切な進路指導を行うための指針が得られるだろう。なお以下では、中学校のレポートについてのみ報告する。これは中学校、高等学校、教育委員会のレポートの内容が大きく異なっており、同一に論じられないと考えられたためである。高等学校のレポートについては、別の紙面を使って報告する。教育委員会等の進路指導担当指導主事のレポートについては、数が少なく適切な考察ができないと判断したため、現段階での発表は控える。

2. 進路指導

「進路指導」という語は「進学相談」と同義であると誤解されている場合が少なくない。そこでレポート内容の報告に入る前に、進路指導の定義および進路指導で育成すべき生徒の能力を確認して述べておきたい。

2.1 定義

文部科学省（2003a, p.140）によれば、進路指導とは「生徒が自らの生き方を考え、将来に対する目的意識をもち、自分の意志と責任で進路を選択決定する能力・態度を身につけることができるよう、指導・援助すること」である。また中條（2002）は進路指導を「一人ひとりの児童・生徒が自己の個性を理解し、自分の将来について考え、進路を自分自身で選択することを支援する指導」としている。どちらの定義も、進路指導を単なる進学相談や就職先の紹介などという限定的で一時的な活動ではなく、適切な職業選択をするために必要な生徒の能力を開発・促進する活動であるとみなしている。価値観や産業構造が複雑化している現代においては、何の指導もなしに生徒が自分の職業観・勤労観を発達させたり、適切な職業選択を行うことは困難であり、これらの定義の内容を踏まえた進路指導が必要とされている。

2.2 進路指導で育成すべき生徒の能力

職業教育・進路指導研究会は、文部省からの委託で平成8年に「教育方法の改善～職業教育及び進路指導に関する基礎的研究」を行い、進路指導において育成すべき生徒の能力を提唱した（仙崎、1998の報告による）。すなわち、①キャリア設定能力（キャリア設計の大切さ、必要性に気付き、それを選択行動に生かす能力）、②キャリア情報探索・活用能力（キャリアに関連する幅広い情報源を知り、情報を活用することができる能力）、③意思決定能力（進路選択時に直面するさまざまな悩み、葛藤を克服し、最善の選択決定とその結果に対処できる能力）、④人間関係能力（自他の存在に関心を持ち、他者との良好な人間関係を発展させるとともに自らの自己実現を図るのに必要な能力）である。なおこれらの各能力はさらに下位の能力を包含していると提唱されている（計12能力）。またこの枠組みを用いた中学校における進路指導実践項目リストも作成されている（中島、1998の報告による。表1）。このように、進路指導で育成すべき能力が構造化されて提示されたことは、教員が進路指導の目的・概略を把握する上で非常に有用である。また、この4能力に基づいた明確な実践項目リストは、進路指導を実践する上で、非常に重要であろう。

3. レポート内容の分析

中学校のレポート（43部）に記述されていた進路指導活動の内容を学年別に分類した（表2）。なお、これらのレポートは、あらかじめ詳細な様式が決められていなかったため、実行している進路指導の全体像が書かれているものもあれば、実行している進路指導のうち特筆すべき活動に焦点を絞って書かれているものもある。つまり、実際には当の活動を行っているにもかかわらず、レポートには記載されていない場合が存在すると思われる。そのため、表2は学校現場の実際をそのまま反映したものではない。しかしこの表から、各学年で行われることの多い活動の種類や活動間の連続性をある程度推測することは可能であり、中学校における進路指導の大まかな傾向が把握できると思われる。なお、各学年の活動を何も報告していないレポートもいくつか存在した（1年生については14部、2年生については6部、3年生については13部）。

表1 中学校における進路指導実践項目リスト(中島, 1998を一部改変のうえ転載)

キャリア設計能力	<p>【生活上の役割把握能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や学習と将来の生き方との関係を理解する ・将来の夢を実現するため、向上心を持つ <p>【仕事における役割認識能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の役割と社会との関係が理解できる ・仕事に関する役割を認識する ・社会における様々なしごとの関連や変化について理解する <p>【キャリア設計の必要性及び過程理解能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路計画の必要性、見直し、修正等過程が理解できる ・希望の進路に対して計画を立てイメージが描ける ・自己を生かせる生活設計を将来を予想して立てられる ・自己の使命を考える
キャリア活用能力	<p>【啓発的経験への取り組み能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・係り・委員会活動などを通して仕事の取り組み方が理解できる ・職場訪問等を通して職業に就いている人たちの生活や考え方、必要な技能がわかる <p>【キャリア情報活用能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報源を見い出し、調査活動ができる ・職場体験や上級学校体験入学等の調査活動を通して、必要な情報を評価し、整理できる ・得られた情報を必要に応じ創意工夫し、提示し、発表できる <p>【学業と職業とを関連づける能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学んだこと、体験したことが将来何らかの形で役に立つことが理解できる <p>【キャリアの社会的機能理解能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業構造や社会の変化の様子がとらえられる ・変化に対応していく職業や仕事を理解する
意思決定能力	<p>【意思決定能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いくつかのものを比較検討し、最適なものを論理的に判断、決定していく過程が理解できる ・葛藤を経験することにより、判断、決定には責任が伴うことが自覚できる ・自分の悩みを整理し、最善の決定に向け、お互いに相談できる <p>【生き方選択能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な職業を理解し、その職業に就いている人の生き方が理解できる ・自分の興味・適性等の関係で生き方を比較検討することができる。そして実現性が検討できる <p>【課題解決・自己実現能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決を見い出し、解決していくことができる ・自己の役割を考え、自分のやるべき事、人のためになることを実行していく
人間関係能力	<p>【自己実現・人間関係尊重能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の良さや自分の成長が理解できる ・自分の非を認めたり受け入れたりできる ・自分のことを他人に表現したり他人を尊重できる ・自分の言動が他人に及ぼす影響を理解できる <p>【人間関係形成能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他人の良さや感情が理解できる ・同年齢異年齢に関わらず、他者との関わりの中で他者を受け入れたり、協調したり、尊敬することができる ・コミュニケーションが図れる ・お互いが支えあっていくことの必要性が理解できる ・リーダーとフォロワーの立場が理解でき、相手と協力し、チームで仕事ができる ・新しい環境や人間関係に適應できる

表2 学年別の進路指導における各活動内容の割合

活動	1年次	2年次	3年次
職業調べ	45.9%(17)	3.7%(2)	2.3%(1)
職場見学	18.9%(7)	1.8%(1)	0%(0)
福祉・ボランティア体験	16.2%(6)	1.8%(1)	6.9%(3)
職業人による講演会	13.5%(5)	14.8%(8)	13.9%(6)
職場体験	2.7%(1)	66.6%(36)	13.9%(6)
適性検査	2.7%(1)	9.2%(5)	11.6%(5)
上級学校体験入学	0%(0)	1.8%(1)	51.1%(22)
計	100%(37)	100%(54)	100%(43)

注1) 上表の割合は、各学年の全活動の総度数を分母として算出した。

注2) 括弧内の数値は度数である。

注3) 各学年において2つ以上の活動を報告している学校もあった。そのような場合には、報告された全活動についてそれぞれ度数1をカウントした。

集計の結果、1年次には職業に興味を持たせるような職業調べや職場見学といった活動が比較的多くなされていた。これは職業意識が低いと考えられる1年生に最初に行わせる活動として、適していると思われる。2年次には職場体験が多くなされていた。なお表2からは十分に読み取れないが、2年次に職場体験を取り入れている学校の多くは、1年次に職業調べや職場見学、福祉・ボランティア体験の活動を行っていた。すなわち職場体験は、職業調べなどの「導入としての活動」を終えた後の第2段階の活動として行われている場合が多いのである。職業意識が全く形成されていない生徒に職業体験をさせても効果は低いと予想されるため、職場体験を第2段階で行うことは適当であろうと思われる。3年次には上級学校体験入学といった活動が比較的多く行われていた。日本では中学から高校をはじめとする種々の学校への進学率が非常に高く、平成14年には中学生の97%がいずれかの学校に進学している(文部科学省、2003b, p.54-55)。上級学校体験入学という活動は、ほとんどの生徒が進学するという現状を反映して行われているものであろう。この活動が3年次に多いのは、生徒が自分の将来についての展望(近い将来どのように過ごしたいのか、遠い将来どのような職につきたいのかなど)を多少なりとも具体化できたときにこそ、この活動が自己実現の補助となると考えられるためであろう。

4. 特徴的な活動

レポート内容の集計によって、現在の中学校における進路指導のおおよその傾向が明らかになった。しかし同じカテゴリーに分類された活動でも、取り組みの詳細はそれぞれ異なっており、注目し得る活動もそうでないものも存在する。また度数が非常に少なかった活動は表2から省かれているが、その中でも注目すべきものがある。そこで以下では、特徴的であり効果的だと思われる進路指導活動を個別に紹介する。これによって進路指導における各活動の改善についての指針を得ることができるとともに、各活動実施の適切な順序(どのような順序で行えば効果的に生徒の能力を伸ばせるか)について示唆が得られると思われる。

4.1 スキル獲得学習

上述のように、多くの中学校では進路指導の導入として職業調べが行われることが多い。しかし鏡中学校では、職業調べに先んじてスキル獲得学習が行われていた（1年次5～7月の総合的な学習の時間）。井上（2003）によれば、この活動は、①手紙の書き方、②電話のかけ方、③敬語の使い方、④訪問の仕方、⑤インターネットの使い方、という5つのスキルの習得を目指すものであり、生徒は5つの班に分かれ、順番に全てのスキルを学んでいた。またこのスキル獲得学習では、机上で各スキルを学ぶだけでなく、実際にそのスキルを使用することを重視していた。例えば実際に手紙を出したり、実際に事業所や一般家庭を訪問したりしていた。このようなスキル獲得学習は他の学校のレポートでは報告されておらず、あまり実行されていない活動であると推測される。しかし、これらのスキルは種々の情報を得るために必要なものであり、職業調べに先んじて学習されれば、非常に効果的に職業調べが行われると思われる。またこの活動は、職業教育・進路指導研究会が挙げた4つの「進路指導において育成すべき生徒の能力」のうちの「キャリア情報探索・活用能力」を促進するのに適していると思われる。スキル獲得学習を行うことによって、この能力を伸ばすことが可能となり、将来のよりよい進路選択につながるとと思われる。

4.2 家庭との連携

多くのレポートでは、小学校や高校の進路指導との連携の必要性が述べられていたが、家庭との連携を報告しているものはほとんどなかった。そんな中で、鏡中学校は、保護者会などの機会に進路指導の意義や種々の情報を伝えるなどの活動を通して、進路指導における保護者との連携を強めていた（井上, 2003）。また、同校は「進路便り」という様々な職業を紹介するプリント（生徒向け）をしばしば作成しているが、それが家庭に持ち帰られて生徒の進路についての親子間の会話を促進しているようである。レポートにはこのプリントに対する保護者の感想がいくつか掲載されていたが、どれもその有益性を認めていた。生徒の、職業観・勤労観を育み、職業選択を支援するのは学校だけではない。家庭での有形無形の支援が必要不可欠であろう。各学校は、保護者との連携が進路指導を行う上で重要であると認識し、連携の努力を行っていく必要がある。

4.3 職業調べ

職業調べ活動を行っているという報告しているレポートは比較的多かったが、その詳細について報告していたのは南郷中学校のレポートのみであった。そこで以下では、南郷中学校の職業調べ活動の手順を紹介する。前田（2003）によれば、南郷中学ではまず生徒に自分がつきたい仕事、興味がある仕事についてアンケートを行った。そしてアンケートで挙げられていた職業について本で調べさせるとともに、それらの職業に関するビデオを5箇所で放映し、その中から生徒自身に4種類を選ばせ、鑑賞させた。その後、それらについての報告をまとめ、学年全体の職業調べの冊子を作成した（補助資料1～5を参照）。南郷中学校の取り組みは、本だけでなく、より臨場感の伝わるビデオを使用したという点で評価できる。ビデオを使用することで生徒が獲得することのできた情報の量は、本を用いた場合よりはるかに多いと推測され、職業調べにおけるAV機器の使用は非常に効果

的であると思われる。南郷中学校の試みは非常に興味深いものであり、教員の努力の大きさが伝わってくるものであった。しかしながら、ビデオを見せてそこから情報を読み取らせることは、キャリア情報探索能力の育成という点では不十分であったかもしれない。有用な情報源を自分で探し出し、そこに自分で直接アクセスする活動があればより効果的であったと思われる。

4.4 職場体験（1）

職場体験という活動を行っていると報告しているレポートはかなり多かった。なかでも長船中学校のレポートは、職場体験に用いられた資料が使用した時期とともに掲載されており、非常に有益だと思われた。そこで以下では長船中学校の職場体験活動（橋本、2003）を紹介する。なお長船中学校の職場体験は2年次に行われていた。

○3月

- ・ 生徒から9名の実行委員を選出
- ・ 愛称の募集（「やろうえ体験 2002」に決定）

○5月

- ・ 年間計画の決定

○6, 7月

- ・ 進路適性検査の実施と個別指導

○8月

- ・ 長船町教育委員会、長船町商工会との打ち合わせ
- ・ 受け入れ事業所への依頼と決定
- ・ 登録カードの配付と回収（補助資料6を参照）

○9月

- ・ オリジナルマークの募集と決定
- ・ 保護者への案内文書配付

○10月

- ・ 体験参加の事業所の希望調査と決定（補助資料7を参照）
- ・ 自己紹介カードの作成（補助資料8を参照）

○11月

- ・ 事前訪問についてのオリエンテーション
- ・ 事前訪問ワークシート作成（補助資料9を参照）
- ・ 事前訪問の電話交渉のしかたについての指導（補助資料10を参照）
- ・ 電話対応マニュアルの学習とシミュレーションの実施（補助資料11を参照）
- ・ 事前訪問予行演習の自己評価（補助資料12を参照）
- ・ 事業所への事前訪問の電話交渉と確認（補助資料13を参照）
- ・ ハローワーク講演会1回目（演題：職場におけるマナーと心構え）
- ・ 事業所への事前訪問（補助資料14を参照）

- ・ 事前訪問のまとめと自己評価

○翌1月

- ・ 職場訪問直前確認連絡（補助資料15を参照）
- ・ 「活動の記録」と「出勤簿」の記入についての指導
- ・ 「やろうえ体験 2002」の激励会
- ・ 「やろうえ体験 2002」ポスターの配付
- ・ やろうえ体験の実施（3日間）
- ・ 「やろうえ体験 2002」まとめ（事業所編・個人編）と自己評価カードへの記入（補助資料16, 17を参照）
- ・ ハローワーク講演会2回目（演題：今後職場に求められる人材像）
- ・ 生徒、保護者、事業所アンケートの回収と集計
- ・ まとめ冊子の製本

上述のように長船中学校の職場体験活動は、とても計画的に行われていた。特に事前指導の丁寧さには目を見張るものがある。ハローワーク講演会（1回目）や事業所への事前訪問、事前訪問のまとめなど様々な事前指導を行うことによって、職場体験に対する生徒のモチベーションは高まっていただろうと思われる。このような事前指導は労力も大きいですが、効果もまた大きいと推測される。各学校は可能な限り事前指導に力を入れることが望まれる。

4.5 職場体験（2）

挟間中学校では、3年次に職場体験を行っていた。この中学校における職場体験の特色は、職場体験後の成果の報告方法にある。二宮（2003）によれば、同校では職場体験後、ウェブ上および文化祭で職場体験の発表が行われていた。文化祭における発表についての詳細は不明だが、ウェブ上の発表はかなり興味深いものであった（挟間町立挟間中学校、2003）。そこには担当職場ごとに生徒の感想、後輩へのアドバイス、職場側の感想などが多くの写真とともに掲載されていた（各ウェブページは生徒たちが作成したものであった）。他の学校でも生徒に職場体験の報告をさせているところが多いが、それらの報告のほとんどは学校内部の人々の目にしか触れられないものであったのではないだろうか。挟間中学校のように学校外の人々に見てもらう形での発表は、報告書作成に対する生徒のやる気を喚起すると思われる。また職場体験に協力してくれた各事業所の人々も自分たちの協力に関するフィードバックが得られ、満足が得られるだろう。各事業所の人々に職場体験が生徒にもたらす重要性を知ってもらうことは、次年度以降の協力につながると思われる。さらに、これらのウェブページは、下級生にもポジティブな影響を与えるかもしれない。下級生はこれらのウェブページを見ることによって、来年度以降に自分が行う職場体験を想像し、その時点から職業・職業選択について興味を持つことがありうるだろう。このように、職場体験の成果が広く公表されることは、様々な利点を生むと思われる。今後は、このような発表方法が多くの学校に広まることが期待される。

4.6 上級学校体験入学

この活動は多くの学校で実行されているが、その事前指導や事後指導を詳細に記載しているレポートは存在しなかった。このことは、もしかしたら、上級学校体験入学に関して事前指導や事後指導があまり行われていないということを示しているのかもしれない。しかし事前指導がなければ体験入学は無目的で無意義なものになりがちであるし、事後指導がなければ体験入学が生徒に与えた効果を把握することはできないだろう。上述のように多くのレポートでは体験入学の詳細は論じられていなかったが、加茂中学校のレポート（江木, 2003）だけは、その事前・事後指導についての概略を掲載していたので以下で紹介する。同中学校は「総合的な学習の時間」を15時間使って事前指導・高校訪問・事後指導を行っていた。事前指導は6月頃に行われ、高校訪問は7、8月頃に行われていた（事後指導の期間は不明だが、9月に生徒による高校訪問の報告会が開かれていることからその前後だと推測される）。「総合的な学習の時間」における学習内容は次のとおりであった。①ガイダンス（進路への自己診断）、②進路学習（卒業後の進路先を確認する）、③事前学習（訪問の原案作り、意義・心構えの確認、班分け、下調べ、依頼文の作成、マナー、具体的な訪問方法などの確認）、④高校訪問（班別に24高校を訪問）、⑤事後学習（礼状・報告資料の作成、報告会準備）、⑥報告会（保護者にも参加を呼びかけた）、⑦まとめ（反省と自己評価）。事前指導として生徒に進路の自己診断を行わせたことや高校訪問の意義を考えさせたことは高く評価できる。これらによって、各生徒が体験入学に対して確固とした目的を持つことができるようになり、体験入学は生徒にとってより有意義なものとなるだろう。また事後指導を行って、反省と自己評価を行わせたことも重要であったと思われる。このような行動を行うことによって生徒はより自分の体験・感想を明確化でき、より適切な進路選択が促進されるだろう。

5. まとめ

本報告では、平成15年度進路指導講座受講で提出されたレポートの内容を整理した上で、それらに記載されていた特徴的な進路指導の試みを紹介した。全体的に見て、多くの学校は様々な困難や限界を抱えつつも、進路指導に積極的に取り組んでいたように思われる。特に職場体験に関しては多くの学校がかなりの努力を費やしており、充実した内容が多かったように思う。このような積極的な姿勢は進路指導の改善を促進し、今後のよりよい進路指導に結びつくだろう。本報告で挙げた具体例が改善の一助になれば幸いである。

ところで、上述のように職業教育・進路指導研究会は、進路指導において育成すべき4つの能力（①キャリア設定能力、②キャリア情報探索・活用能力、③意思決定能力、④人間関係能力）を提唱したが（仙崎, 1998による）、各中学校はこれらの能力を引き出す適切な進路指導活動を行っているだろうか。筆者は、①～③の能力を育成する活動は比較的多く行われているが、④の能力を育成する活動はあまり行われていないのではないかと推測する。例えば、多くの学校で行われている職場体験、職業調べ、上級学校体験入学の活動は、①、②、③の能力をある程度促進すると思われるが、④人間関係能力（自他の存在に関心を持ち、他者との良好な人間関係を発展させるとともに自

らの自己実現を図るのに必要な能力)を促進する活動(例えば、福祉・ボランティア体験など)はあまり行われていないと思われる。今後は、これらの活動を積極的に行って、自己と他者との関わり的重要性を学ばせ、人間関係能力の育成に努めることが求められるだろう。

引用文献

冒頭にアスタリスク(*)が付けられている引用文献は、「学年別の進路指導における各活動内容の割合(表2)」の集計に含まれている文献である。

- *安藤 稔 2003 わが校の進路指導ー3年間の体系的な進路指導と実践ー平成15年度進路指導講座資料(山口県長門市立深川中学校, 未公開)
- *千代西尾 真理 2003 わが校の進路指導ー職場体験学習を通し、自らの生き方を考えるー平成15年度進路指導講座資料(鳥取県鳥取市立西中学校, 未公開)
- 中條和光 2002 進路指導 松田文子・高橋 超(編) 生きる力が育つ生徒指導と進路指導 北大路書房 Pp.192-228.
- *江木伸吉 2003 我が校の進路指導ー保護者・地域とともに進める進路指導の実践ー平成15年度進路指導講座資料(広島県福山市立加茂中学校, 未公開)
- 榎本和生 1998 大学等における就職・進学等への指導・援助 進路指導, 71(10), 27-32.
- *榎本克之 2003 わが校の進路指導ー生きる力をはぐくむ進路指導ー平成15年度進路指導講座資料(奈良県奈良市立三笠中学校, 未公開)
- *藤田泰司 2003 わが校の進路指導 生徒が自分の将来を見通し、主体的に進路を計画・選択する進路指導の実践 平成15年度進路指導講座資料(三重県久居市立久居中学校, 未公開)
- *原田晴美 2003 わが校の進路指導ー計画的・組織的な進路指導の実践ー平成15年度進路指導講座資料(山口県豊北町立豊北第二中学校, 未公開)
- 挾間町立挾間中学校 2003 2003年度の活動内容 3年生(職場体験) <http://www.town.hasama.oita.jp/~jhhasa/>
- *橋本 保 2003 我が校の3年間の進路指導とその実践ーチャレンジワーク14「やろうえ体験2002」ー平成15年度進路指導講座資料(岡山県長船町立長船中学校, 未公開)
- *廣川雅己 2003 わが校の進路指導ー自己の生き方を探求する生徒を育てる学習指導ー平成15年度進路指導講座資料(福岡県大野城市立大利中学校, 未公開)
- *井上雅晴 2003 計画的・組織的な進路指導の実践 平成15年度進路指導講座資料(熊本県鏡町立鏡中学校, 未公開)
- *金本伸一 2003 我が校の進路指導ー職場体験学習の推進ー平成15年度進路指導講座資料(愛媛県今治市立南中学校, 未公開)
- *川久保博隆 2003 わが校の進路指導「青嶺中学ドリカムプラン」 平成15年度進路指導講座資料(佐賀県伊万里市立青嶺中学校, 未公開)
- *木下雄介 2003 わが校の進路指導ー生き方を学ぶ進路指導ー平成15年度進路指導講座資料(島根

県出雲市立第一中学校，未公刊)

- *熊谷民雄 2003 ー3年間を見通した計画的，組織的な進路指導をめざしてー 平成15年度進路指導講座資料(広島県吉舎町立吉舎中学校，未公刊)
- *桑名弘子 2003 わが校の進路指導ー計画的・組織的な進路指導の実践ー 平成15年度進路指導講座資料(福岡県築城町立築城中学校，未公刊)
- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 2002 児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について 調査研究報告書
- *前田正博 2003 わが校の進路指導ービデオを活用した職業調べを中心にー 平成15年度進路指導講座資料(大阪府大東市立南郷中学校，未公刊)
- *益田芳秀 2003 わが校の進路指導ー「生きる力」を育む進路指導の実践ー 平成15年度進路指導講座資料(鹿児島県入来町立入来中学校，未公刊)
- *御船宗則 2003 わが校の進路指導 平成15年度進路指導講座資料(鳥取県倉吉市立久米中学校，未公刊)
- 文部科学省 2003a 文部科学白書(平成14年度) 財務省印刷局
- 文部科学省 2003b 文部科学統計要覧(平成15年度版) 財務省印刷局
- 中島 満 1998 中学校における進路指導の計画と展開 進路指導, 71(9), 17-25.
- *中越由美 2003 わが校の進路指導 併設型中高一貫校 平成15年度進路指導講座資料(高知県立安芸中学校，未公刊)
- *中村妙子 2003 我が校の進路指導ー啓発的な体験活動を取り入れた進路指導ー 平成15年度進路指導講座資料(長崎県小浜町立小浜中学校，未公刊)
- *二宮保秀 2003 わが校の進路指導ー地域に学ぶ「生き方」の学習 「総合的な学習の時間」を通してー 平成15年度進路指導講座資料(大分県挾間町立挾間中学校，未公刊)
- *西村勉 2003 わが校の進路指導ー地域の人々とのふれあいを通し，主体的に自己の生き方を考えられる生徒を育てるー 平成15年度進路指導講座資料(三重県名張市立赤目中学校，未公刊)
- *布引伸幸 2003 わが校の進路指導ー自己実現をめざす生徒の育成ー 平成15年度進路指導講座資料(和歌山県古座町立西向中学校，未公刊)
- *岡田吉雄 2003 わが校の進路指導ー計画的・組織的な進路指導の実践ー 平成15年度進路指導講座資料(大阪府大阪市立高倉中学校，未公刊)
- *佐伯浩司 2003 わが校の進路指導ー職場体験学習の実施ー 平成15年度進路指導講座資料(香川県三木町立三木中学校，未公刊)
- *斉木孝嗣 2003 わが校の進路指導ー計画的・組織的な進路指導の実践ー 平成15年度進路指導講座資料(鳥取県米子市立福米中学校，未公刊)
- 仙崎 武 1998 小・中・高校を一貫する進路指導の在り方～平成8・9年度文部省委託調査研究「最終報告」を中心に～ 進路指導, 71(9), 3-8.
- *相馬一夫 2003 わが校の進路指導～進路指導の在り方と具体的な実践～ 平成15年度進路指導講座資料(熊本県菊陽町立菊陽中学校，未公刊)

総務省統計局 2003 平成 14 年度就業構造基本調査 結果の要約 <http://www.stat.go.jp/data/shugyou/2002/kakuhou/youyaku.htm>

- *菅澤健直 2003 わが校の進路指導－職場体験学習を通して－平成 15 年度進路指導講座資料(島根県島根町立野波中学校, 未公開)
- *高瀬忠夫 2003 わが校の進路指導 保護者・地域とともに進める進路指導の実践 平成 15 年度進路指導講座資料(岡山県哲西町立哲西中学校, 未公開)
- *武田大和 2003 わが校の進路指導－計画的・組織的な進路指導の実践－平成 15 年度進路指導講座資料(宮崎県五ヶ瀬町立鞍岡中学校, 未公開)
- *田中 章 2003 わが校の進路指導－職場体験学習を通して－平成 15 年度進路指導講座資料(大分県中津市立緑ヶ丘中学校, 未公開)
- *谷川真一 2003 わが校の進路指導 自ら進路について考え, 自らの進路を切り拓こうとする力を育成する 平成 15 年度進路指導講座資料(京都府京都市立大淀中学校, 未公開)
- *十川道雄 2003 わが校の進路指導～学級活動における進路指導の年間指導計画とその展開(第 3 学年)～平成 15 年度進路指導講座資料(徳島県川島町川島中学校, 未公開)
- *植村徳治 2003 我が校の 3 年間の進路指導－保護者・地域とともに進める進路指導の実践－平成 15 年度進路指導講座資料(長崎県芦部町立那賀中学校, 未公開)
- *馬越正敏 2003 わが校の進路指導～自己実現をめざす進路指導～平成 15 年度進路指導講座資料(滋賀県日野町立日野中学校, 未公開)
- *宇都佐和子 2003 わが校の進路指導－計画的・組織的な進路指導の実践－平成 15 年度進路指導講座資料(鹿児島県鹿児島市立甲南中学校, 未公開)
- *若林一道 2003 わが校の進路指導 平成 15 年度進路指導講座資料(三重県四日市市立保々中学校, 未公開)
- *安原秀樹 2003 わが校の進路指導－平成 14 年度の取り組み－平成 15 年度進路指導講座資料(岡山県倉敷市立東中学校, 未公開)
- *山上正人 2003 わが校の進路指導－「生き方」を考える生徒指導－平成 15 年度進路指導講座資料(京都府野田川町立江陽中学校, 未公開)
- *山本 進 2003 わが校の進路指導－保護者・地域とともに進める進路指導の実践－平成 15 年度進路指導講座資料(和歌山県貴志川町立貴志川中学校, 未公開)
- *吉田 淳 2003 わが校の進路指導 職業体験を通しての進路への取り組み 平成 15 年度進路指導講座資料(大阪府寝屋川市立第十中学校, 未公開)
- *慶田貴子 2003 我が校の進路指導－計画的・組織的な進路指導－平成 15 年度進路指導講座資料(沖縄県那覇市立石田中学校, 未公開)
- *吉田昌史 2003 わが校の進路指導－計画的・組織的な進路指導の実践－平成 15 年度進路指導講座資料(愛媛県一本松町立一本松中学校, 未公開)
- *吉本康隆 2003 「我が校の進路指導」～計画的・組織的な進路指導の実際～平成 15 年度進路指導講座資料(広島県竹原市立竹原中学校, 未公開)

補助資料

以下の補助資料は、前田（2003）および橋本（2003）に掲載されていた資料をできるだけ忠実に転記したものである。

補助資料 1

進路学習に向けてのアンケート

* 339 職種の中からあなたがやってみたい職業を選んで3つ答えてください。

* 339 職種の中で仕事のなかみについて知りたい職業があればその職業名を書いてください。

* なぜ職業につき仕事をする必要があるのだと思いますか？

* 将来のために今のあなたができることは何ですか？

_____ 1年 組 番氏名 _____

補助資料 2

「しごと」ビデオ メモ用紙

後でみんなに報告できるよう要点をメモしておきましょう。

	1回目	2回目	3回目	4回目
しごと名				
なにか 〔どんな仕事か説明できるように〕				
なるほど この仕事をするにはどんな資質や適性が必要か。				
なるには どんな資格や免許が必要か。また、それを得るにはどのようにすればよいか。				
このしごとではどんなよころびやつらいことがあるか、またそれを聞いて感じたか。				

補助資料 3

「しごと」ビデオ報告書 1年 組 番氏名

職業名				
ビデオを見るに当たりなぜその仕事を選んだのか。				
どんな仕事であるか。 仕事の内容				
その仕事をするためには、どんな資質や適性が必要であるか。				
必要な資格・免許 それを得るにはどうすればよいか。				
この仕事ではどのようなよるこびやつらいことがあるか。				
この仕事について感じたこと、考えたこと				

いろんな仕事について知る機会を得ました。今あなたは仕事をする事についてどのようにかんがえていますか

補助資料 4

職業分野 No.		職業名	報告者名 組
仕事の内容			
どんな人に向いているか			
資格・免許	必要な資格・免許		
要 ・ 不要	所得するには		
どのような勉強・技術が必要であるか			
その取得方法			

補助資料 5

あなたが将来この職業に就くためにはどんな進路を歩めばいいでしょう。
その設計図を書いてみましょう。

南郷中学校卒業

職業名

補助資料 6

登録カード（生徒受け入れ希望調査票）

事業所または商店名		
職 種		
代表者または担当者		
所 在 地		〒
連絡先	電 話 番 号	
	F A X 番 号	
生徒の受け入れについて	受け入れ希望人数	() 人 ※ 希望があれば 男子 () 人、女子 () 人
	活動内容 (接客・販売・配達・製造・運搬等、具体的な活動内容がわかる範囲内でご記入ください)	
	活動に必要な服 装	
	必要な持参品及び準備物	
	学校への要望	
	備 考 欄	

* この登録カードにより、今後、学校教育活動の中で体験学習を実施する場合にご協力いただける団体として登録させていただきます。

* FAX で送付いただいても結構です。
 長船町立長船中学校 ×××× (第2学年主任) 宛
 〒××××-×××× 邑久郡長船町××××
 ☎ (……) -- -- …… FAX (……) -- -- ……

平成 14 年 9 月 25 日

2 年生みなさんへ

長船町立長船中学校
第 2 学年主任 × × × ×

平成 14 年度 岡山チャレンジ・ワーク 14 (職場体験活動)
「やろうえ体験 2002」活動事業所希望調査について

生徒のみなさん一人ひとりに望ましい職業観や勤労観を育て、自己の生き方について考え、様々な課題を乗り越えることができる生徒になるために、2 年生を対象として、職場体験活動を 3 日間実施することを計画しています。(この活動を「岡山チャレンジ・ワーク 14」と呼びます。)

皆さんを受け入れてくださる事業所の一覧表を作成しました。そこで、どのような職場で職場体験活動をしてみたいか、希望をとりたいと思います。実りある職場体験活動にするために、自分の意志で真剣に考え、記入しましょう。

【記入の仕方】

- 1 職場体験したい職場を選び、職業分類と職場名及び理由を書きましょう。
- 2 第 1 希望の職場が、受け入れ可能とは限りません。そのため、第 2 希望、第 3 希望まで書きましょう。

「やろうえ体験 2002」(岡山チャレンジ・ワーク 14)
活動事業所希望調査票

2 年	組	番	生徒氏名
-----	---	---	------

希望欄	職業分類		事業所		
			第 1 希望	第 2 希望	第 3 希望
第 1 希望	番号				
	名称				
	理由				
第 2 希望	番号				
	名称				
	理由				
第 3 希望	番号				
	名称				
	理由				

【記入上の注意事項】

- ※ 職業分類は記号で記入する
- ※ 事業所名は番号と事業所名の両方を記入する
- ※ 保護者の職場については、名称の欄に(保)と記入する。

補助資料 8

自己紹介カード

長船中学校 2年	組	番	性別	
ふりがな 氏名				
昭和 年 月 日生 (満 歳)				
現住所 〒 岡山県				
緊急連絡先 TEL (昼間連絡がとれるところ) () -			自宅電話番号 () -	
通勤時間 約 時間 分			通勤方法	
好きな教科			スポーツ	
趣味			特技・資格	
私のセールスポイント				
職場体験の目標				

写真

「やろうえ体験 2002」《電話応対シュミレーション》

No.	事業所名	グループ	学年	組	番号	氏名
			2			

① 最初の一言（あいさつ、自己紹介、電話を掛けた目的を必ず言う。）
 こんにちは（おはようございます）、私は長船中学校2年生の _____
 です。来年、1月にお世話になる _____

_____ ご担当の（ _____ ）様は今、おられますでしょうか？

※ → パターン1 「はい、私ですが・・・」 ③へ進む。

※ → パターン2 「はい、少々お待ちください。」 ②へ進む。

② 担当の方との話（あいさつ、自己紹介、電話を掛けた目的を再度）
 ※ もう一度 ①を言う。

③ 本題（何を相談して決めるのかな？また伝えるべき事は何か？）
 お忙しい所、すみません。 _____

※表の「3. 今回、事業所に電話を掛ける目的は？」を参考にしよう！
 ※お互いの都合が合わずに決まらないかも……。どうする？

④ 確認（決定したことを「オウム返し」しよう。）
 はい、わかりました。それでは 月 日、 曜日の 時頃、私たち
 名で （具体的な訪問場所）に訪問させていただきます。

⑤ 最後の一言（お礼の言葉を忘れずに。）

⑥ おっと、気を抜くのはまだ早い。静かに受話器を置いてから。

※本当に困った時は、「確認して再度、お電話いたします。よろしいですか？」

事業所 NO	体験事業所名	組 番 氏名
--------	--------	--------

「やろうえ体験2002」 事前訪問予行演習 自己評価表

予行演習を終えて、5段階で評価しましょう

5・・・よくできた、 4・・・まあまあできた、 3・・・ふつう
2・・・あまりできなかった、 1・・・できなかった

	評 価 項 目	1 回 目	2 回 目	3 回 目
準 備	頭髪・服装は整っていて清潔感があったか？			
入 り 方	気持ちのよいあいさつができたか？			
	礼の仕方はよかったか？			
話をするとき 質問を聞くとき	目的・用件は分かりやすく言えていたか？			
	正しく敬語が使えていたか？			
	聞くときの態度はよかったか？			
出て行き方	お礼の気持ちを込めたあいさつができたか？			
全 体	長船中学校の生徒としてよい印象を与えたか？			

1回目に向けて (目 標)	
2回目に向けて (目 標)	
3回目に向けて (目 標)	

次回の目標

補助資料 12

「やろうえ体験 2002」《事業所への電話メモ》

No.	事業所名	グループ	学年	組	番号	氏名
			2			

事業所名					
電話番号					
担当者	様				
訪問日時	《第1希望》	月	日	曜日	時
	《第2希望》	月	日	曜日	時
	《第3希望》	月	日	曜日	時
	《決定日時》	月	日	曜日	時
訪問場所					
持参物					
その他					

(注意!!) 先方の都合もあるとは思いますが.....

事前訪問の可能日時(授業時間を使い、特別に設けた時間です。)

11月26日(火) 14時30分～

どうしても先方の都合がダメなら

期末テスト中、12月2日、3日の午後!!

やろうえ体験 2002 事前打ち合わせ

個人用

2 年 組 番 氏名

2 年 組 番 氏名

事業所 No.	
---------	--

【1 日の仕事の流れ】

仕事内容			
時間	1 月 21 日 (火)	1 月 22 日 (水)	1 月 23 日 (木)
:			
:			
:			
:			
:			
:			
:			
:			
:			

番号	事業所名	電話番号	事業所担当者名

項目	確認・点検
1 集合場所	
2 自分の交通手段	
3 事業所への到着時刻	: 到着予定
4 事業所の集合時刻 と	: へ集合
5 集合場所	
6 駐輪場所	
7 服装	
7 持参品	・「質問用紙」・筆記用具・上履き ・メモ用紙・ナップザック
8 注意事項	
9 終了・解散時刻	: 頃
10 帰宅予定時刻	: 頃
11 帰宅連絡者	() 組 氏名 ()
12 緊急時・帰宅時連絡先	長船中学校 0869・××××××××

「やろうえ体験 2002」《職場体験直前確認連絡》

No	事業所名	代表生徒氏名	班員（代表者以外に） 名

1. 事業所へ直前確認電話連絡 《1月16日（木）までに》

事前打ち合わせ（11月下旬）からかなり日数が経っています。「先方が忘れて
いるかも」、「打ち合わせ事項が変更しているかも」、「先方が本当に自分たちが来
るのか心配しているかも」などの不安を解消するためにも必要なことです。

【電話対応 例】（自分なりに話しやすいようにアレンジしよう!!）

.....、わたしは.....です。来週、1月
21日、火曜日からお世話になる職場体験の事で電話したのですが、ご担当の
様はおられますか？

.....、わたしは.....です。11月
（または12月）の.....の時は.....。職場体験当日
が近づいてきましたので、最終確認ということで電話しました。事前打ち合わせど
おり、1月21日、火曜日の.....時に（私ども.....名で）出勤させて頂こう
と思っています。出勤場所は.....、また.....
.....を持参して出勤します。

ところで、事前打ち合わせでおかがいした内容の変更などはありませんか？
わかりました。それでは来週、火曜日からの職場体験では.....
.....《各自の意気込み、気持ちなどを伝えてみよう!!》
.....という気持ちで取り組みたいと思っています。今日はお忙し
いところありがとうございました。失礼します。

直前確認電話連絡 1月 日 時ごろ終了

A

2. グループでの最終確認 《1月17日（金）までに》

事前打ち合わせの内容をもう一度、グループ全員で確認しよう。もし、誰か一人
でも、聞きもらした事や聞き間違いをしていることがあればグループとして困るば
かりでなく、先方にも迷惑をかけてしまいます。「直前確認電話連絡」の内容も含
めて代表者が責任を持って確認してください。

最終確認（グループ員 名） 1月 日 終了

B

各グループの代表者は「1. 直前確認電話連絡」、「2. グループでの最終確認」を
責任を持って実行し、この用紙を1月17日（金）までにXXへ提出すること。
「何事も段取り八分」です。「よし、やるぞ」という気持ちと事前準備、事前確
認がしっかりしていればほぼ成功間違いなしです。

補助資料 15

やろうえ体験2002 まとめ（事業所編） 事業所名・・・			
体験目標 （ねらい）			
氏名（組）			
活動内容（スケジュール）			
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px; text-align: center; vertical-align: top;"> 9:00 ┆ ┆ ┆ ┆ ┆ ┆ ┆ </td> <td style="width: 80%;"></td> </tr> </table>	9:00 ┆ ┆ ┆ ┆ ┆ ┆ ┆		
9:00 ┆ ┆ ┆ ┆ ┆ ┆ ┆			
事業所の方から アドバイスや 注意事項及びお話			
この職業について 分かったこと 気づいたこと			
この職業を選ぶ人へ アドバイス			

やろうえ体験 2002 まとめ (個人編)	事業所名 _____ 組 番 名前 _____
心に残ったこと 楽しかった うれしかった やりがいを感じた ↑ ↓ 大変だった 苦勞した つらかった	
Q1 自分にとって“働く”とはどういうことだと考えました(思いました)か。	
チャレンジワークに 行くまでは・・・	
チャレンジワークを 終えて	
友達の意見を聞いて (発表会を終えて)	
Q2 今後、どんな生き方や生活をする必要があると思いましたか？	
チャレンジワークを 終えて	
友達の発表を聞いて (発表会を終えて)	